

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

令和2年度より幼稚園型認定こども園に移行したことに伴い、これまで同様「幼稚園教育要領」によって、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をより明確にした保育を行なう。また、幼小接続という大きな名題を抱えながらも、本園においても、環境を通して行なう教育を基本とし、社会との連携及び協働により、資質・能力の向上を図る為「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の三点を重視する。そして、認定こども園としての保育機能を強化した体制で子育て支援事業を推し進めていく。その中で、幼児期の特性を捉え、教育に対し感謝の気持ちを持ち、のびのびと明るく元気に安心して過ごせる園を目指し、自分の力で人生を切り開き、社会のために尽くす子どもを育成する。

- 1、四條畷学園の建学の精神「報恩感謝」、教育理念「人をつくる」、教育方針「個性の尊重」「明朗と自主」「実行から学べ」「礼儀と品性」を推進するために、「YYプロジェクト（ヨコミネ式教育法）」を教育メソッドとし、豊かな人間形成の基礎を育む。
- 2、安心・安全な環境のもとで集団生活を送り、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、子どもが主体的に活動しようとする積極的な態度を養う。
- 3、遊びや活動を通して、自然や社会に対する関心を広げ、人との触れ合いや協力を通して、基本的な信頼感や心身の調和した発達の基礎を培う。
- 4、子ども一人ひとりをよく見守り、子どもの健全な成長を促すことができるよう、その個性・特性に応じた指導を行なう。
- 5、保護者や地域と連携・協力し、より多様な教育環境を創り出すことによって、子どもの生活体験を豊かにし、いきいきとのびやかな成長を促す。

2 中期的目標

1、心身の健全な成長を促し、豊かな人格形成の基礎と感謝の心を培う。

- (1) 思いやりと優しさのある子どもに育てる。(心の力)
- (2) 自ら考えて行動する子どもを育てる。(学ぶ力)
- (3) 健康で明るく活発な子どもを育てる。(体の力)
- (4) 建学の精神「報恩感謝」をあらゆる機会を通して培う。

2、基本的生活習慣の形成と規範意識を高め、社会のマナーを身に付ける。

- (1) 基本的な生活習慣の形成とルールを守ることやマナーを身に付ける。
- (2) 集団生活に必要な思考力、態度と行動を身に付ける。

3、安全・安心な教育環境を整え、子どもが自発的な活動としての遊びを通しての総合的な指導を行ない、一体的に積極的に活発な活動を促す。

- (1) 安全・防災教育を推進し子どもの安全を確保するとともに、危険を回避する力を身に付ける。
- (2) 子どもが安心して楽しく生活できる環境を整備し、興味や関心を広げる。
- (3) 自然や社会に触れて感じたり理解したりすることができる環境を整備する。

4、教育課程を通して積極的に取り組む行動や友達と助け合い協力する態度を身に付ける。

- (1) 運動や戸外の遊びを楽しみ、意欲を高め挑戦しようとする気持ちや技能を養う。
- (2) 読む・書く・数えることに興味や関心を持ち、考える力・表現する力を身に付ける。
- (3) 友達と一緒に喜んで活動に取り組み、努力することや力を合わせることの大切さを学ぶ。

5、子どもの個性・発達・特性に応じた指導を丁寧に行なう。

- (1) 子どもの個性の違いを踏まえて一人ひとりに適切な援助を行なう。
- (2) 子どもの成長や発達、特性の違いを踏まえてその子に応じた支援を行なう。

6、保護者・地域社会・小学校と連携した円滑な教育活動を実施する。

- (1) 保護者と連携しながら意識を高め、充実を図り共に子どもを育てる。
- (2) 子育て支援事業として「つどいの広場」・「相談支援」を設けるとともに、地域と連携して豊かな教育活動（園庭開放など）を実施する。
- (3) 幼稚園・保育園・認定こども園同士の情報の共有や教育課程・保育課程について理解を深め円滑な接続を図る。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを重視し、環境を通して、心身の健全な成長を促す中で、感謝の心を培います。	(1) 建学の精神「報恩感謝」を実践するとともに、子ども子育て支援事業の拡大を図り、保護者全員が就労している場合等の家庭に向けての利用拡充を図る為、幼稚園型認定こども園に移行して2年目を迎えます。 (2) 従来の教育・保育内容を引き続き実践するため「YYプロジェクト（ヨコミネ式教育法）」を推進します。 (3) 「つどいの広場」・「相談支援」活動など積極的に子ども子育て支援事業の拡充を図ります。	①教育時間は、1号認定、2号認定とも共通とし、幼稚園としての教育水準を保つようにします。 ②各号認定に応じて、早朝預かり保育、預かり保育、延長保育を設定します。 ③保護者全員が就労していない場合等か、保護者全員が就労している場合等かを見極めながら、預かり枠を設け、状況に応じた保育を行ないます。 ④YYプロジェクトの目標である「心の力」・「学ぶ力」・「体の力」をバランスよく育み、人間的に自立し、自分の力で夢を実現できるようにします。 ⑤子ども子育て支援事業として、「つどいの広場」と「相談支援」を中心に積極的な活動を続けていきます。	自己評価点「4.0」以上を目指します。 (幼稚園型認定こども園移行2年目を迎える、P D C Aサイクルを活用して、教育・保育力の向上を目指します)
2 幼稚園型認定こども園として、地域社会に向けて、子ども子育て支援事業の具体的な拡大を図ります。	(4) 感謝の気持ちを培い、表現できるようにします。	⑥あらゆる機会を通じて、「ありがとうございました。」の言葉が自ら出てくるようにし、「してもらったことに感謝し、自分もお返しをしよう。」いう気持ちを養います。	自己評価点「4.0」を目指します。 (感謝の気持ちを持ち、それを伝える環境を作ることを評価指標とします)
3 基本的生活習慣の形成と規範意識を高め、社会のマナーを身に付けます。	(1) 4学年体制になり、年齢に応じた基本的生活習慣とルールを守ることやマナー意識を身に付けます。 (2) 集団生活に必要な思考力、態度と行動を養います。	①最年少クラス（満3歳児）は、誕生日の翌月からの登園を基本とし、年少・年中・年長クラスにおいては、学年に応じて、挨拶の徹底、衣服の着脱の習慣、食育の意識向上など、生活習慣上大切な習慣を身に付けます。マナーの点で、人と接する時に「しなくてはならないこと」と「してはいけないこと」の判断力の修得に努めます。 ②集団のルールを理解し、集団の中で自分の動きを意識する力と仲間への思いやりの気持ちを養います。	自己評価点「4.0」を目指します。
4 安全・安心な教育環境を整え、子どもの積極的で活発な活動を促します。	(1) 安心・安全、衛生面に重視した環境の整備に努めます。 (2) 学年に応じた子どもの積極的な活動力を培います。	①1号認定、2号認定の違いで、預かる時間に違いが生じているが、開園中の安全確保（セキュリティ）と保育室の環境整備に努めます。 ②最年少児（満3歳児）の水遊びや年少児以上の戸外プール時は感染症対策と周辺工事の進捗状況を見ながら、安全対策に努めます。 ③登降園時の防犯、安全、衛生対策を徹底します。 ④園内における健康管理に努めます。 ⑤防災・避難訓練・交通安全教育・防犯教室を可能な限り実施します。 ①教材・遊具・用具を利用して、各学年に応じた活発な活動を身に付けるようにします。 ②栽培を通して、食の大切さを考える機会を作ります。 ③園外に出る行事で視野を広げ、人と触れ合える場を積極的に作ります。	自己評価点「4.0」以上を目指します。
5 幼稚園生活を通して積極的に取り組む行動や友達と助け合い協力する態度を身に付けます。	(1) 教育・保育環境の整備、充実を図ります。 (2) 教職員の資質向上を図ります。	①運動や遊びを通して、挑戦しようとする気持ちや技能を養います。 ②読み・書き・計算などに関心を持ち、主体的に考え、表現する力を養い、努力や協力の大切さを学びます。 ①週案を重視しながら、年間目標、中間報告等常にP D C Aサイクルを回すことを継続します。 ②預かり保育担当職員との情報共有、共通理解に努め、連携を強化していきます。	自己評価点「4.0」以上を目指します。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
6 子どもの個性・発達・特性に応じた指導を丁寧に行ないます。	(1) 健康で活発な子ども、周りの人に対して優しくできる子どもに育てます	1号認定、2号認定における幼稚園の滞在時間によって、教育水準に差が出ないようにします。	自己評価点「4. 0」以上を目指します。
	(2) 個性を尊重し、伸ばす指導、支援を行ないます。	一人ひとりの子どもの個性・発達・特性に応じた指導を継続して行ないます。	自己評価点「4. 0」以上を目指します。
7 教育・保育活動で保護者との連携を重視し、地域の方との関係を密にしていきます。	(1) 来園できない状況を考慮に入れながら、連絡方法に工夫を凝らして、行ないます。	4学年体制と号認定の違いはありますが、各家庭に可能な限りの協力・支援体制をお願いしていきます。	自己評価点「3. 8」以上を目指します。
	(2) 地域の理解や協力を得ながら、子ども子育て支援事業を推進していきます。	教育・保育活動における支援と奨励に努め、子ども子育て支援事業推進のため、「つどいの広場」、「相談支援」事業を行ないます。	自己評価点「4. 0」以上を目指します。
8 教職員の研修を推進し、幼稚園型認定こども園運営体制の充実を図ります。	(1) 園外の研修会ではWEBでじっしすることが予想されますが、可能な限り積極的に参加します。園内研修において、保育力の向上を目指します。	対面、WEB研修会の両方においても情報を共有し、研鑽に努めます。	自己評価点「4. 0」以上を目指します。
	(2) 教職員の協力・連携を継続、教育・保育力の向上と充実を図ります。	学年目標の到達度を常に確認しながら、週案を重視することで到達度を確認していきます。	自己評価点「4. 0」以上を目指します。
9 入園希望の保護者のニーズを研究し、募集力を引き続き強化します。	(1) 最年少クラス（満3歳児）と2歳児教室ひよこ組の受入体制を常に検討します。 (2) 幼稚園型認定こども園としての順調な運営を行います。 (3) こども園関係の手続き、無償化に伴う手続き等を確実にします。 (4) 預かり保育のICT化「Brain」の定着を図ります。 (5) 学園小学校との交流会や内部進学希望調査を行ない、内部進学の強化と推進を図ります。 (6) 課外教室は、採算面を含めた検討を継続します。	①最年少クラス（満3歳児）は3年目を迎えて、幼稚園生活を順調に送ることができる環境を更に整えていきます。 ②幼稚園型認定こども園として運営面を含めて、園生活が順調に送れるようにします。 ③「預かり保育」関係の手続き、給食費において主食・副食費の手続きを順調に行なうようにします。 ④多様化する預かり保育の利用拡大が想定されるため、園児管理ソフト「Brain」の安定した確認作業を行います。 ⑤「読み聞かせ」や「ものづくり」などに参加することで、特に内部進学の強化と推進を図ります。 ⑥新園舎の完成に伴い、2歳児教室（ひよこ組）の安定した運営を行います。	自己評価点「3. 8」以上を目指します。